

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【常盤北小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	ドリルパークを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができた。しかし、スタディサプリについては、活用場面や機能が限定され、活用頻度も教員によって差が見られた。他校での活用事例の収集や活用研修を通して、授業や家庭における活用場面の拡大等を図っていく。また、次年度の学力向上目標としては、全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査で、引き続き全国及び市の平均を上回ることができるよう、反復・習熟に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	資料の精選や読み取り方の具体的な指導、基礎的な読み方を生かした学習活動など、「つなげて読む」「比べて読む」「重ねて読む」活動を充実した授業づくりを他教科でも行い、自己の考えをまとめる活動を取り入れていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「国語の勉強は好きですか」の質問項目において、4、5年生の肯定的な回答の割合が市の平均を大きく上回った。「社会の勉強は好きですか」の質問項目において、6年生の肯定的な回答の割合が市の平均を大きく上回った。他学年においても、児童が自らの学習状況を振り返ることができる発問を工夫したり、他者との協働を通して自分の考えを比較、検討する場面を多く設定するなどの実践を取り入れていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の国語・算数の「知識・技能」において全国及び市の平均を上回る。	⇒ 週1回のチャレンジタイム(朝学習の時間)等で、スタディサプリやドリルパーク等を活用し、反復・習熟に取り組む。問題場面の数値の意味を解釈し記述させる活動を増やす。また、授業の中で、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現したり、日常生活の事象を問題に置き換えて考えたりする活動を行う。
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査の自校結果より、国語の「思考・判断・表現」において全国及び市の平均を上回る。	⇒ タブレットPCのコンテンツ「ミライシード」の学習履歴を活用し、児童が「学びの足あと」を振り返り、学習の積み重ねを行っていけるようにする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「国語の勉強は好きだ」「社会の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合の全国及び市の平均を上回る。	⇒ 全ての授業において、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を毎時間設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定し、その後の学習の進め方を調整できるように支援する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査国語・算数の「知識・技能」において、R4年度自校の全国学力・学習状況調査より算数+4.5ptであった。また、国語、算数ともに全国の平均を上回った。R5年度さいたま市学習状況調査国語「知識・技能」において、小4+5.2pt、小5+1pt、小6+1pt。算数において、小3+6pt、小4+8.1pt、小5+6pt、小6+7.4ptと市の平均を上回った。	B
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査国語の「思考・判断・表現」において、R4年度自校の全国学力・学習状況調査より国語+9ptであった。また、国語、算数ともに、全国の平均を上回った。R5年度さいたま市学習状況調査国語「思考・判断・表現」において、小3+0.5pt、小4+10.6pt、小5+4.3pt、小6+9.8ptと市の平均を上回った。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「国語の勉強は好きだ」の質問項目において、肯定的な回答の割合は国語は79.5%で全国の平均を上回った。R5年度さいたま市学習状況調査「国語の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は71.3%、「社会の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は80.6%だった。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語-2pt、算数+4ptであった。国語では、送り仮名に注意して漢字を正しく書けない児童が国に比べて多いため、基礎基本の確実な定着を進める必要がある。算数では、データを活用して解く問題に課題があり、全国平均を下回った。問題の意味は理解しているものの、目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えられずに解答している児童が多かった。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度の自校の結果と比較し、国語+9、算数±0ptであった。国語の「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く力に課題が見られた。今後は、根拠となるキーワードを入れたり、字数制限で端的にまとめさせる活動を意識していく。算数のデータの活用領域が低い結果となった。表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めるなどの活動を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「国語の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は、79.5%と全国平均より+19pt。「算数の勉強は好きですか」の質問項目において、肯定的な割合は、69.2%と全国平均より+8ptと大きく上回った。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の回答において、89%が肯定的な回答を得たことから、引き続き、子どもの主体的な学びとなるよう授業研究を進めていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は、参考値扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査において、さいたま市の平均と比較すると、国語は-1.8pt下回り、算数は+5.4pt上回った。教科への興味関心については、国語に関して、文中の主語と述語の関係に課題があった。肯定的な回答の割合が国語55.9%算数76.3%と市の平均を下回った。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査の国語において、さいたま市の平均と比較すると、国語は+6.5pt、算数は+7.4ptであった。国語は、言語文化に関する問題に課題があった。教科への興味関心については、肯定的な回答の割合が国語に関して80.9%と算数が76.6%と市の平均を大きく上回った。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査の国語において、さいたま市の平均と比較すると、国語は+2.8pt、算数は+6.7pt、社会は+7.9pt、理科は+5.3ptであった。国語は、作者の心情や情景について描写を基に捉えることに課題がある。教科への興味関心については、肯定的な回答の割合が国語79.1%、社会が81.4%、理科が93%と市の平均を上回った。算数の肯定的な回答の割合が62.8%と市の平均を下回った。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査の国語において、さいたま市の平均と比較すると、国語は+5.6pt、算数は+10.8pt、社会は+6.6pt、理科は+6.2ptであった。理科の実験の方法を選択する問題での正答率が高く、普段の授業での問題を見いだす活動を重視した成果がみられた。教科への興味関心については、肯定的な回答の割合が国語69.2%、社会84.6%、理科87.2%と市の平均を下回ったが、算数の肯定的な回答の割合が61.5%と市の平均とほぼ変わらなかった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 全国学力・学習状況調査の結果から、自分の考えを論理的に説明することに課題がみられたため、図や数を用いて記述・説明できる活動を重視していく。また、他者の考えと自身の考えを比較・検討する習慣を身につけさせる指導を工夫する。
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 理科をはじめ全ての教科等の授業で、体験活動を多く取り入れたり、ICT機器を積極的に活用したりして、理数教育に対する関心を引き出す活動を行う。